

### 埼玉古墳群の墓主

墓主を想定できる古墳は極めて少ない。その中で当古墳群は極めて恵まれている。当古墳を語るには二つの文字資料がある。稲荷山古墳出土の辛亥銘鉄剣(471年)と『日本書紀』安閑期の武蔵国造争乱記事(534年)である。

辛亥銘鉄剣には、製作主の乎獲居を含む8代の系譜が記されている。先祖などは架空であろうが、乎獲居の父「加差披余」、祖父「半弓比」は実在の人物と考えられている。素直に読めば銘文鉄剣を出土した礫塚には、乎獲居が眠っていたことになる。しかし、稲荷山古墳の墓主ではない。この墓主は、礫塚の下に存在するであろう未確認の埋葬主体部に眠る人物であり、彼こそ乎獲居の父「加差披余」である可能性がある。それでは祖父「半弓比」は、どこに眠るのであろうか。これは、稲荷山古墳出現の経緯を考える上で極めて重要な課題である。その答えは未だ見出せないでいるが、同古墳群内に存在するのではないかと夢想している。

武蔵国造争乱記事には、笠原直使主と同族小杵の名前が見える。小杵は国造職の奪取を目指したが、結局使主(「朝廷」)に誅殺される。そして使主は国造職を得る。使主の墓を安閑期と年代の近似する丸墓山古墳に想定したい。我が国最大の円墳(105m)出現の背景には、このような事情が存在したのであろう。そして、敗者小杵は、荒川の対岸約8kmに存在する巨大円墳甲山古墳(95m)を想定したい。不遇な死を遂げた小杵もまた、前方後円墳の築造は適わなかったのである。(中村倉司)

